



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り

令和5年 8月号

ヨハネスブルグ日本人学校

いよいよ2学期のスタート!



日本では、酷暑の夏の報道が繰り返しなされています。季節が逆となるヨハネスブルグは11年ぶりの雪が降ったことが話題になっていました。いよいよ寒かった冬が終わり、春の季節を迎えます。

本日から2学期が始まりました。子供たちの元気な声が学校に戻ってきて、安堵すると同時に嬉しさを感じました。最も長く、学校生活に落ち着いて取り組むことができる時期です。より一層充実した日々が送れるよう教職員一同、子供たちを支援していきます。

前号でお知らせいたしました、「ソーラーパネル等設置工事」が休業中に完了いたしました。校舎全体の配電の点検やプール等のポンプ使用時の切替など、細かな調整を行っている段階です。

今回の大きな工事に引き続き、少しずつではありますが、今後も計画的な修繕や改良工事を進めていく予定です。子供たちが少しでもよい環境で学ぶことができるよう、運営委員会の方々と連携しながら取り組んでまいります。

さて、今学期は、運動会(9月初旬)や学習発表会(11月初旬)を予定しています。子供たちの日々の学びの成果を保護者の皆様にご覧いただけるよう計画的に取り組んでいきます。笑顔に満ちた子供たちの学校生活の充実のため、ご家庭の皆様のご理解及びご協力の程、よろしくお願いいたします。



人皆に美しい種あり…明日何が咲くか

(ある資料より) ※お時間おありの時、ご一読ください



学校の教育活動は、教育課程はもちろんのこと、あらゆる活動を計画に基づいて進めています。

特に、日本人学校である本校は、小学部・中学部の枠を越え、子供たちがお互いに協力し合い、共に高めようとする心を育み、授業や行事を通して、学級や学校の集団としての学びの機会を充実させることもねらっています。国際性の伸長やグローバル化に対応できる人材として、将来彼らが担うことも大きな目標としているところです。

さて、休業中にいくつかの資料等に目を通す機会がありました。

一つは、経済同友会から出された「自ら学ぶ力を育てる初等・中等教育の実現に向けて～将来を生き抜く力を身に付けるために～(2019年4月3日)」です。詳細は省きますが、総論では、ヒト、ツール、制度などの改革が謳われています。各論の文頭では、「経営者は、自らを育てる能力を有する人材、言い換えれば、①自身の関心・強みを特定し、アプローチを工夫して結果が出るまでやり抜く責任感と意思の強さを持った人材、②加速する技術革新を適切に活用できる倫理感と社会性を有する人材、③多様性を受け止める寛容さと自身を表現する力を有する人材—を求めており、企業に所属するか否かに関わらず、将来社会を生き抜く上で、こうした資質・能力がますます重要になると考えている。」と記されています。

さらに、少し古い資料となりますが、「企業の採用と教育に関するアンケート調査(同2016年12月21日)」が示唆を与えています。企業が学校教育(中学校)に期待する資質・能力は、人格的要素として、対人コミュニケーション能力(89.7%)、自立心の養成(70.9%)、折れない心・粘り強さ(63.4%)、学力的要素として、基礎学力の養成(95.3%)、一般教養教育(75.1%)、論理的思考能力や問題解決能力の養成(57.7%)などです。

子供たちにこれらの内容を声高に伝えることはないのですが、子供たち自身が日々の学びを通して、「自分の良さ」の何を磨いていくことが、自分の幸せや地域・社会への貢献につながっていくのかを意識してほしい、自分の良さの可能性を信じてほしいと願います。

詩人の安積得也さんは、「人皆に美しい種あり…」の詩で、自分や仲間達の良さに目を向けさせてくれます。

2学期は、最も長く、多くの行事を通して自分の良さに気づき、成長を感じることができる毎日が続いてくれればと願うところです。

人には必ず開花する、それぞれのすばらしい種があることを信じ、どのような成長を経てどのような花をさかせるか、努力を続けるための惜しみない支援を教職員一同で行っていきます。

